

## 帝王切開における抗生剤の投与を 段階的に短縮したパスの評価

こ ばやし まさ ゆき かん の こう すけ  
小 林 正 幸 菅 野 晃 輔  
つぼ くら かおり  
坪 倉 かおり

キーワード：術後感染予防抗菌薬適正使用，帝王切開術，クリティカルパス

### 要 旨

帝王切開術後の抗菌剤投与をクリティカルパスの変遷より，術後5日目までの長期投与群（Ⅰ），手術翌日までの投与群（Ⅱ），手術直前単回投与群（Ⅲ）に分け，術後の炎症反応，手術部位感染への影響につき検討した。各群間で術後5日目のWBC術後5日目のCRPの値には差はなかった。手術部位感染トラブルはⅠ群（長期）で1/20（5.0%），Ⅱ群（翌日まで）1/29（3.4%），Ⅲ群（単回投与）で7/39（17.9%）とⅢ群でやや多くみられた。その後パスに連日創部チェックを加えてみたところ術部位感染トラブルは4/30（13.3%）とやや減少したが，Ⅰ群（長期），Ⅱ群（翌日まで）よりは多い傾向にあった。この結果を踏まえ，当院では創部の保護を注意しながら抗菌剤は術直前単回投与を行っている。

### 【はじめに】

手術の際の予防的抗菌剤投与は耐性菌抑制のためにも，投与期間はガイドライン上投与期間短縮を推奨され<sup>1-3)</sup>，術後感染予防抗菌薬使用ガイドライン2016<sup>3)</sup>より準清潔創手術においては，手術直前に十分な血中濃度が得られれば単回投与が推奨されている。この度は選択的帝王切開パスにおいて，段階的に抗生剤投与期間を短縮し，術後の炎

症，手術部位感染への影響につき検討した。

### 【研究方法】

抗菌剤投与期間の違うパスを用いた3群間で術後5日目の白血球数，術後5日目のCRP値，術後3ヶ月までの手術部位感染トラブルを検討した。図1に抗菌剤投与方法を示す。Ⅰ群（長期）は術後2日まで抗菌剤点滴しその後3日間の抗菌剤内服を行った。Ⅱ群（翌日まで）は手術翌日まで抗菌剤点滴を行い，Ⅲ群（単回投与）は術直前に抗菌剤単回投与した。

表1に，各群のパスの適応期間と，その中での

Masayuki KOBAYASHI et al.

独立行政法人国立病院機構浜田医療センター産婦人科

連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12

浜田医療センター